

# 議員行政視察報告

令和元年6月19日(水)から20日(木)に、議員4名により、「イターン(民間活力)によるまちづくり」をテーマに宮城県気仙沼市唐桑町の「まるオフィス」と「唐桑まちづくり協議会」を行政視察しましたので、その概要を報告します。

参加議員 大館秀孝・齋藤 永・小澤啓司・飯田 一

## 唐桑町の歴史と沿革

唐桑町は面積42km<sup>2</sup>、人口6千29人、平野部が少なく気仙沼市との交通手段が舟であった為、比較的地域固有の文化が守られていた地域です。

昔から遠洋漁業が盛んでしたが、二度のオイルショックや国連海洋法条



宮城県

%に留まり、復興までには更に多くの年月がかかりそうです。



説明を受ける

## 「まるオフィス」と「唐桑まちづくり協議会」

約の成立により、現在は牡蠣やホタテの養殖が主な産業になっています。又、「森は海の恋人」として、海を守るには山地向の植林が必要だと環境保護活動に熱心な地区でもあります。

2006年気仙沼市と合併。人口減少による過疎化と高齢化率の上昇が進行している最中、2011年の東日本大震災に遭遇し、多くの被災者が他地区で避難生活を送っています。8年経過した現在の災害復旧工事の進捗率は、防潮堤40%、被災道路65%、下水道管83

震災直後、多くのボランティアが集まりましたが、ボランティアと支援を受けたい人のアンマッチが続ぎ、FWC(フレンズ国際ワークキャンプ)の被災地支援活動要員として早稲田大学卒業直後の加藤拓馬氏が派遣され、2012年にイターンメンバーと地元の若者によって唐桑ボランティア団「からくわ丸」が設立されています。

「ないものねだりではなく、あるものさがし」をコンセプトに、住民とまち歩きをしながら地域の魅力を再発見する活動や、唐桑で頑張っている人を紹介するフリーペーパー「けっから」を発行するなど、地域の魅力を探し出し「一緒に頑張ろう」と活動しています。

加藤氏は2015年、「からくわ丸」を母体として町づくりの実践組織「まるオフィス」を立ち上げています。地域住民による「協育」や移住推進などを通じて、地域の

人材育成や持続可能性の仕組みづくりに挑戦するとして、地元の子供たちを対象に体験型「じもとまるまるゼミ」を開催したり、移住・定住支援活動や担い手育成支援事業を実施しています。

2018年12月、このような活動を支援すべく「唐桑町まちづくり協議会」が設置されました。

「からくわ丸」の復旧活動や「まるオフィス」のまちづくり活動が認められたものと思います。企画・立案・実行は「まるオフィス」、行政との調整は協議会と役割分担ができています。

大震災発生以降の気仙沼市は、インフラとライフラインの復旧に忙殺され、地域の復旧には手が回りませんでした。F-

WCから派遣された被災地支援活動員がリーダーとなり、イターンやボランティア・地元の方々たちと連携ができたこと、何よりも地域住民の理解・協力が得られたことが、唐桑地区の復旧・復興に大きな力となり、地域コミュニティのひび割れを修復していると思われま

(記 小澤啓司)



唐桑総合支所前

\*協育…住民が先生となり、地域の特産や歴史・地理・風習等を子ども達に伝承するしくみ